

はじめに

いよいよ来年度（平成14年度）より、新学習指導要領が全面実施されます。本校では平成10年度より「教育課程の創造」を研究主題に、新学習指導要領の趣旨をふまえ、新しい時代にふさわしい教育課程の編成に取り組んでまいりました。そして、本校独自の教科内容の厳選を行いながら、平成11年度から2年間の移行措置をとって、本年度は3年生以上の学年に週3時間の総合学習の時間を設けると共に全学年とも土曜日には授業を入れず学級裁量の時間とすることにより、学校週5日制の新学習指導要領に対応したカリキュラムを完全実施いたしております。したがって、本年度の研究主題を昨年度に引き続き「自己の学びを深める」とし、副題を「ピースタウン curriculum の実践を通して」として、これまで研究してまいりました本校独自の教育課程の実践を通して、子どもにとっての真の「学び」とは何かを引き続き探究いたしました。

私たちは「学び」とは自分にとって意味のあることに気づき、自分なりの価値観を獲得することと考えております。すなわち、「学び」を、結果としての知識の獲得だけでなくその獲得の仕方や問題解決能力の獲得をも含むものとし、この「学び」を深めることが新たな行動の原動力となり、それがひいては「生きる力」を育むことにつながると考えております。すなわち、「生きる力」を育むことが「学び」の目的と考え、本年度は、「生きる力」とはすべての人が生涯を通じて培っていく価値があり、変化の激しい流動的な社会を生きるために必要な資質や能力との観点から、「学び」を小学校教育で目指すべき「知性と教養」という新しい学力観でとらえ、これからの小学校教育のあり方を考えてみました。

学校における「学び」の場として、教科・道徳、総合学習、特別活動の三つの場がありますが、本年度は特に以下の諸点に取り組みました。

教科・道徳については、子ども達が、基礎・基本を確実に習得できるためのゆとりの時間を確保できるよう今一度内容を吟味し、子どもに教えることとまかせることを区別して小学校での必要な学びを追求すると共に、5年生に教科担任制を試行し、本校の特色を生かした新しい学校づくりを模索しました。

総合学習について、本校はこれまでテーマ性のある内容で構成する三領域（「環境」「人間」「文化」）と二分野（「英語活動」「情報教育」）を設定し、実践してきました。この内、三領域につきましては、領域ごとに単元を構成し実践してきましたが、どうしてもテーマ設定型総合学習ゆえの教師主導傾向が否めなかったことから、本年度は、従来の三領域の視点を大切にしながら学級単位で年間計画を立案し進めていくことにより、教師主導のテーマ設定型総合学習からの脱皮を目指してみました。

特別活動については、本校の児童は居住地域が金沢市全域に広がっており、学校生活以外で子ども同士のつながりが薄いことに配慮し、従来より、特別活動としての児童会活動を中心にして異学年たてわり小集団活動を積極的に活用いたしておりますが、さらに一步進めて、教科の内容の関連や発展として扱う、あるいは総合学習の年間プランの中で位置づける等の手だてを検討いたしております。

また、評価方法についても「融合型の評価モデル」の一つである「ポートフォリオ的評価」を総合学習の評価方法とするだけでなく、教科・道徳や特別活動の評価にも応用すべく実践に取り組み、この一年間の研究成果をこの紀要にまとめました。ご高覧いただき、忌憚のないご意見、ご批判を賜りたいと存じます。

末尾になりましたが、本校の教育実践・研究に貴重なご指導、ご助言を賜りました金沢大学ならびに関係諸機関の先生方に厚く御礼申し上げます。

平成13年11月15日

金沢大学教育学部附属小学校
校長 三 好 義 昭